みんなで育てる地域福祉

二本松市

取材協力

二本松市社会福祉協議会

〒969-1404
二本松市油井字濡石1番地2
TEL (0243) 23-7867

みんなでつくろう！学校における福祉教育

～二本松市社会福祉協議会主催「児童生徒福祉教育推進懇談会」～

1月25日に開催された児童生徒福祉教育推進懇談会の様子。二本松管内の19校の先生方が参加し、福祉教育の現状と課題が話されました。

市町村社協では、すべての人が安心して暮らせるまちづくりを進めています。福祉教育の充実もその一つで、地域で暮らすみんなが互いにその人らしさを尊重し、地域の課題に気づき学ぶことで、地域の力を育てていくというものです。そのため、福祉教育は学校だけではなく、地域が一丸となって取り組むことが求められています。今回は、二本松市社協が取り組む子どもたちのための福祉教育についてお伝えします。

地域のチカラを学校の福祉教育に活かす

二本松市社協主催による「児童生徒福祉教育推進懇談会」は、今年度で3回目を迎えます。懇談会の目的は、二本松管内の小中学校の先生方が参加し、福祉教育の現況や課題について情報を交換することです。また懇談会では、二本松市社協が平成22年度から開始した「福祉教育出前講座」の紹介もされました。

「出前講座の評判は上々のようです。この講座は、手話体験や介助体験、アニマルセラピーなどの体験型の福祉教育を学校で提供するプログラムで、講師はおもに二本松市で活動しているNPO法人やボランティア団体などの皆さんです。勉強というよりむしろ、楽しみながら学べるという点が子どもたちに新鮮に感じられているのではないでしょうか」と教えてくれたのは、二本松市社協地域福祉課の宍戸裕行課長。

「福祉教育は、地域の慣習や伝統との結びつきが強くなってきてます」と二本松市社協地域福祉課の宍戸裕行課長。

「福祉教育と聞くと〝先生が学校で指導するもの〟というイメージが強いのですが、私たちの出前講座では、計画の段階で子どもたちの意思を反映させ、身近な人々の暮らしや生き方に社会的な意味を持たせた体験をとおして、子どもたちの自主性や自発性を伸ばし、社会福祉への理解を深めていくことを大切にしています。社協では、地域社会と学校を結ぶパイプ役を果たしたいと考えています」と宍戸課長。学校も地域の中で福祉を担う一員という考え方は次第に根付きつつあるようです。

学校での福祉教育に加えて、二本松社協では、〝地区社会福祉協議会〟の立ち上げなどにも取り組んでいます。「地域の課題を地域のみんなで共有し話し合う場が必要です。そのきっかけづくりを後押しするのも社協の役目だと感じています」と宍戸課長。地域に暮らす人が参加する福祉が着々と進んでいます。

スゴロクの上には、扉や階段などいくつものバリア（障害物）が置かれています。重い荷物を持った人はどんなことが困るか体験。

どうしても進めなくなったら「アイデアを出す」カードで解決。楽しく遊びながらユニバーサルデザインの本質を理解できるところが狙い。

子どもたちの心に響く福祉教育が大事

学校で取り組まれている福祉教育にはどんなものがあるのか、今回の懇談会では、19校の先生方の間でさまざまな意見が交わされました。現在、エコキャップリサイクル活動、障がい者とのふれあいボランティアなど様々な活動が行われているものの、中には「地域とのつながりをなかなか実感できない」「募金をしても相手の顔が見えないので達成感が希薄」といった感想も寄せられました。

「福祉教育の話し合いでは、活動に割く時間的な余裕がないということがよく言われます。短時間で継続的な活動を行うのは確かに難しいのですが、学校も地域の実態に合わせた活動を模索していくべきだと感じています。おざなりの福祉教育ではなく、子どもたちの心に響くことが大事ではないでしょうか」と話してくれたのは二本松市教育委員会学校教育課の鈴木一髙課長。そのためにはまず自分たちの暮らす地域をよく知ること、地域の中で学ぶことが福祉教育をスムーズに進めるためのキーワードといえます。

「地域の福祉ニーズをとらえるためには、社協との連携が今後ますます重要です」と二本松市教育委員会学校教育課の鈴木一髙課長。

たくさんの声をつないで生まれる福祉教育

懇談会の後に行われた公開授業では、「ユニバーサルデザインって何？」をテーマに「UDスゴロクまちなかぐるぐるゲーム」が行われました。講師は、NPO法人ユニバーサルデザイン・結の冨樫美保代表理事と菅野真由美副代表です。このスゴロクは1周目は出た目の数だけ進むことができますが、2周目からは「変身カード」を使って障がいのある方や妊婦さんなどにプレーヤーが変身し、実際に扉や階段、デコボコ道などのバリア（障害物）を体感することになります。バリアに止まったときは「クリアカード」を使ってみんなで話し合い、解決してゴールをめざします。

冨樫代表理事は、「現在、地域でのつながりや助け合いが希薄になってきています。ユニバーサルデザインの考え方は、〝思いやり〟や〝やさしさ〟の心を育て、地域をつなげることに貢献できます。この巨大スゴロクは私たちが開発した福祉教材ですが、楽しみながらユニバーサルデザインを学べると好評です。今回は先生方が相手の授業でしたので、ちょっぴり緊張してしまいました」と笑顔で話します。

「一人ひとり違うところがあって当たり前。福祉教育では、誰にとっても暮らしやすい社会をめざし、地域に眠っている力に気づき、育んでほしいと思います。子どもたちにも地域の中で助け合いの心、思いやりの心の大切さを感じて成長してほしいですね」と冨樫さん。

共に生きる社会をめざし、学校や地域をつなぐ二本松市社協。今後の活躍に期待が寄せられています。

NPO法人ユニバーサルデザイン・結の代表理事の冨樫美保さん。「ユニバーサルデザインを通して世代間交流をもっと活発にしていきたいです」。